PEACH-PIT

Πのフィールド

ローゼンメイデン 6

PEACH-PIT

集英社

YJ ヤンジャン YJC

ISBN978-4-08-879214-9

C9979 ¥600E

9784088792149

定価 本体600円+税

1929979006006

雑誌 44271-14

6

決意を胸に再び登校を始めたジュンだが、
初日は気分が悪くなり、教室まで辿り着けない。
そんな中、ジュンのクラスに転校生がやって来る。
彼女はジュンに会うために転校してきたと言うのだが!?
いっぽう、薔薇乙女たちは雪華綺晶の手がかりを求め、
再び"Πのフィールド"に向かっていた…!

YJ ヤンジャン YJC

6

ローゼンメイデン 6

PEACH-PIT

講談社

ローゼンメイデン
6

ローゼンメイデン 6

contents

TALE 32 新しい朝 …… 3

TALE 33 視線 …… 31

TALE 34 籠の中 …… 55

TALE 35 友達 …… 79

TALE 36 絆 …… 109

TALE 37 硝子の靴 …… 139

EXTRA TALE 〈番外編〉 …… 169

TALE 32

大丈夫
ジュンくん
忘れものない？
ない
ほんとに？
ハンカチは？
チリ紙は？
鞄は？　制服は？
後半ふたつは
見ればわかるだろ
あーもう　うるさい
だって　お姉ちゃん
心配で…途中まで
ついていこうかしら
絶対やめろ
ったくもう
たかだか学校へ行く
くらいで大げさなんだよ
ジュン

気を
しっかりね
マスター
今日の乙女座は
1位だよ
お前らまで
なぁ…
あらでも
朝から一番
ソワソワしていたのは…
翠星石！
ほらジュンくんに
言いたいこと
あるんだろう

聞いてあげて
ジュンくん
ずっと
練習してたんだ
？
うん…
あっ
かくれた
…い…
「いってらっしゃい」
い…い…

犬に噛まれて死ね！ です

…わかってあげて
何を

はぁもう…まぁいいや
ﾁｬﾘｰﾝ

行ってきます

朝のにおい
って
こんな
だっけ…
うん
大丈夫
足だって軽い
イケる
おはよ——
あ——
おはよー
……
な…何
あせってるんだ
僕…
落ち着け…
オドオドしてると
変なヤツに
思われる
おはよう
おはよう…
すたすた
おちつけ
おちつけ

桜田くん？
わ…
あ…？
柏葉…

今週から登校するって
のりさんから
聞いてたけど…
まさか本当に
会えるとは
思わなかった
…はは
まぁ…うん
新しい教室の
場所わかる？
多分
大丈夫…
「まさか本当に」
って…
本当に学校
来るって
思わなかった
ってことかよ

柏葉…なんか
いつもと違う…？
雰囲気
かわった？
いや…

巴
おはよ――！
あ…
おはよう
今日 朝練
なかったの？
うん
2年からは
時々休みで
そう…か…
柏葉
なじんでるんだ
通学路っていう
当たり前の
この空気に

僕だけが
違うんじゃないか？
みんな気付いて
るんじゃないか？

桜田くん ノート
貸した分の勉強
すぐ追いついちゃった
みたいだから
きっと
クラスにもすぐ…
…桜田くん？

どうしたの
大丈夫？

桜田くん…
そろそろ授業が始まる時間かな
ジュンはどうしてるかしら
しっかりやれてるですかねぇ…いきなりいじめられたりしないですか？
そんな心配するならなんであんなこと言うのさ
あっあれは翠星石なりのスパルタエールというやつです
ビクッ
この家の扉の向こうはジュンの世界（フィールド）だわ
そして私達もまた…
ひッ
です!?

どっしり
なんだぁ
猫ですよ——
この辺のボスです
じぃ…
じっと一点を
追っているね
おっおっ
驚くことは
なくてよ
この子は私の
友達なのだから
お茶会に遊びに
来てくれたのね…
そうらクッキーを
召しあがれ
声
うわずってる
ホントに
友達ですか
ふん
ふん
折角(せっかく)会えたのに
残念だけれど
お前がそれを食べたら
私達も行かなくては…
そうですね
のりやジュンが
出かけている間に
うん…

nのフィールドへ
向かいましょう

……

……あ……れ……

そう…
校門の前で

はい
とても気分が
悪そうに…

わかったわ柏葉さん
ありがとう
もう教室に
戻りなさい

でも…

授業が始まるわ
担任の先生には
伝えておくから

はい…

――ああ…

最悪だ

こんなことって
どうして
こうなるんだ…
早すぎた
いい気に
なりすぎたんだ
やっぱり来月に
すればよかった
あぁ…
…クソ
ダメだ
最初から
こんな失態
折れる
どころじゃない
って…
無理だ
帰りたい――

ジュン？
ガそ、
あっ違った
こっちじゃない
ガさ
ゴソ…
じゃ ここか
ジュン！
とっ
鳥海!?
とりうみ
し――っ
し――っ
いま先生
出てったとこだから
気付かれちゃマズイ
ごっ
いや…
そういう…
なっ…何
やってんの…？

何って…
学校来てるって
聞いたからさ
トイレ行くふりして
教室抜けてきた
なんだ
元気そうじゃん
あ…うん
さっきまで
気分が…
じゃあちょっと
話そうよ
ヒマだろ？
ヒマって
いうか…
相変わらず
ずかずか来るな
……
え？ 何が
いやなんでも
よかったよ
学校来てくれて
連絡とろうにも
ジュン
ケータイないしさぁ
えっアドレス
教えたじゃん
PCの
手打ちとか
ムリだし
じゃ なんで
聞いたんだ？
まぁ聞いといて
連絡どらな
かったのは
僕も一緒だけど…
というか…

なんで違うクラスのこいつが僕が来たって聞いてるんだよ
ウワサにでもなってるのか？
まだ教室に足をふみ入れてもいないのに…
桜田って誰だっけ？
いきなり保健室って
あ――あのヒキコモリの
だめだいま考えるな
僕の考えすぎなんだそれはわかってる
誰もそんなに僕のことなんか気にかけてない
きょ…

繭…
みたいだ
きっと
ここなら
ここまでは
誰も…
どうしても
安心してしまう
自分がいる
こうして遮断されていれば
誰も追ってこないって——

ジュン
ぽん
あ…
ごめん…
何が？
俺そろそろ
戻るからさ
そうだった
こいつは
いま
繭の中に…
明日な！
ぽん
……
ん？
また明日
来るんだろ？

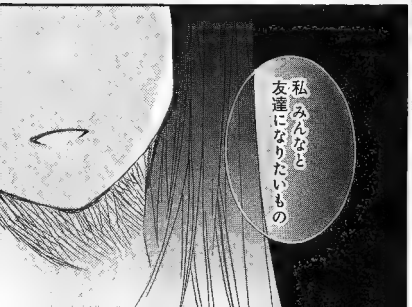
またな
ジュン
…またな
僕
こいつみたいに
なりたい――…

桜田って
学校出てきた
らしいよ
あーあの…
なんで来てなかった
んだっけ？
そんなことより
6組の転校生だろ

どんな
どんな？
けっこー
可愛いらしいよ
見てきた
けっこーてか
相当いいアレは
ホントかよ
…

誰か
教室のドアを
……
あら
いいわ

新しい教科書
明日には届くって
先生が…
ノートは
私のでよければ
コピーするから
ありがとう
委員長さん


私 みんなと
友達になりたいもの

柿崎めぐさん…
すごいお嬢様
らしいよ——
そんな感じ
する——
体が弱くて
ずっと療養
してたんだって…
大人っぽくて
きれいだよねー

ほんとは中3なんだって
高校生って聞いたけど
でもごめんなさい落ち着かないでしょう…
ううん
共学ってはじめてだからなんだか新鮮
私 女子校だったのあまり通えてなかったけど…
え…
じゃあ どうしてこの学校に…
ふふ…
会いたい人がいたから
会いたい人？
そうこのクラスの

桜田ジュンくん
ハッ…

明日…
明日だ
明日は行ける
きっと行ける…
きっと…
教室まで…

TALE 33

昨日と今日の境目も
わからなかった

退屈な——だけど
安全な場所から
流れる景色だけを
見ていた日々

でも
外では他人は
あんなにも忙しなく
動いて

——ああ

一日って
こんなに
長いのか——

柏葉…
おはよう

昨日
あれから
会えなかったから…
うん
ゴメン…みっともない
とこ…
気にしてない
それより今日は
大丈夫？
たぶん…

また具合が
悪くなったら言って
それに
まだあまり
無理しなくて
いいと思う
……
うん

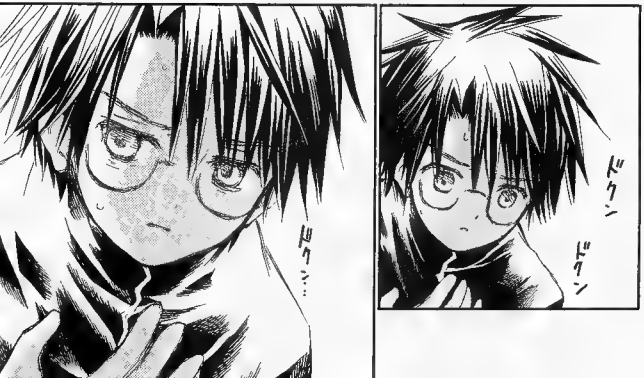
柏葉も
きっと…
まだ
無理だって思って
るんだろうな
もって あと
1日か2日
——とかって
あー もう！
やめようなんでも
悪い方に考えて
自分を追い込むのは…
浮上浮上！
……
そういえばね…
うちのクラスに
転入生がいるの
えっ
あぁ…へえ
そうなんだ
本当は 私たちより
2学年上なんだけど
療養でずっと
休んでいたんだって
へぇ…
ずいぶん重い
病気だったのかな
かもしれない

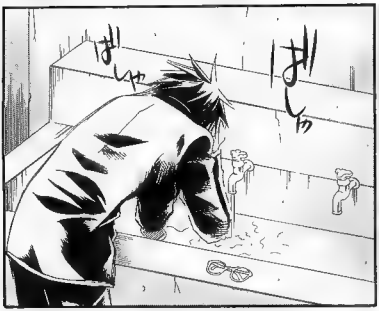
転校生…か…
僕以外にも新顔がいるってコト…
だったら不登校も少しは目立たないかな…
……
桜田くん…知り合い？
えっ転校生と？なんで!?
なんとなく…
ああでも…不登校なんかと病気治すのとを一緒にされたくないよな
僕なんか…
……
あーだめだ！浮上！
？
あ…いやなんでも

……
……
昇降口
ここまで来た
足も震えてない
昨日 確かめた
僕の下駄箱
まっすぐ行け
自然に
フツーに
よし…
よし！
カタン

あっ…
かっ柏葉
あの…ゴメンさ…先に行ってちょっと
あとから行くから

どうしたの？何か…
いやっ…なんでもないトイレ寄るだけだから
そう？じゃあ行ってる…無理しないでね


ドクン
ドクン
ドクン…


ばしゃ
ばしゃ

嫌なやつの
一人や二人見かけた
からってなんなんだ
あせることない
なんでもない

だいたいアイツら
もうクラスも違うし
たまに会ったって
むこうはもう
僕のことなんか
覚えていないだろ
そうだ誰も
覚えてない
自分で思ってるほど
誰も不登校のヤツの
ことなんか気にしない
みんなきっと何で
休んでたのかだって
忘れてる
くらいだろ
そうだ
よしっ…！

ざわ
ざわ
2年の廊下
はじめて通る…な
おはよ
あはは…
ほら大丈夫だ 誰も見てない
心配しすぎだ 自意識過剰だったんだよ
2-6
よし…大丈夫 柏葉に席の場所は聞いてあるし
新しいクラスでだって…目立つようなことしなければ…
そうだよ 転校生だっていうんだ…きっとみんなそっちに目が行ってる
だから誰も僕のことなんか…

あー…
あの人かぁ
ひそ
転入生の
言ってたさ…
ひそ
へ――
ほんとに？
どれ？
なんで…!?
なん…
…え…

桜田くん
これは…
ガラ
おはよ――う
みんな席につけーっ
なんだなんだ
騒がしいぞ
お前たちーっ
おはよございまー
う…
梅岡先生…
先生ー
転校生はー？
あー？ 今日は休みって連絡もらってるなー
最悪だ…
この空気で
このタイミングで
まさか…
じゃ出席とるぞー
相田――っ
滝野――っ
柏葉ーっ
桜田…？
ぱっ
桜田じゃないか！

みんな――
注目――!!
6組の仲間である
桜田がついに
来てくれたぞ!
拍手だ!

……
なんてことに
なったら…
相田ー
浅野ー
柏葉ー

2-6

それから
え――……
ゴクン
桜田――

椎名――
須藤――
……?

一日ってこんなに

キーン

コーン

長い……

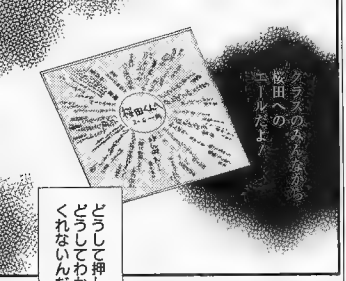
大丈夫だ
誰も見てないぞっ
どうだ？調子は
あ…はい
別に…
こしょっ
そうか…このまま
午後も出れそうか？
はい…

昨日は出張でな…
保健室に行ったって
聞いて…
ついてて
やれなくて
ごめんなぁ
いえ…
とにかく無理は
しなくていいから…
焦る必要なんか
ないんだからな
なっ？

絶対無理は
しないって先生と
約束だぞっ？
……
無理するな
無理するなって
どいつもこいつも
人を病人
みたいに…

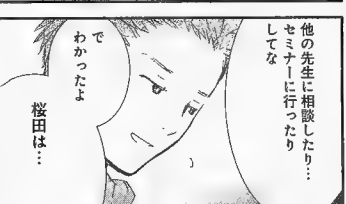
僕…やっぱり

この人苦手だ…



どうして押しつける
どうしてわかって
くれないんだろう

どうして



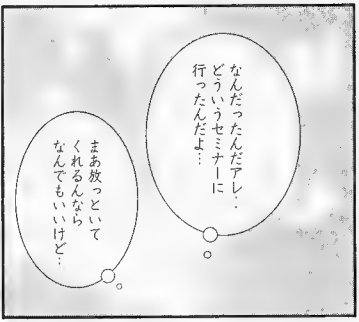
人より ちょっと
恥ずかしがり屋
なんだよな
だから全然
特殊なわけ
じゃない！
桜田みたいな子は
今 日本中に
たくさんいる
でも それも
キラキラした
個性なんだ！

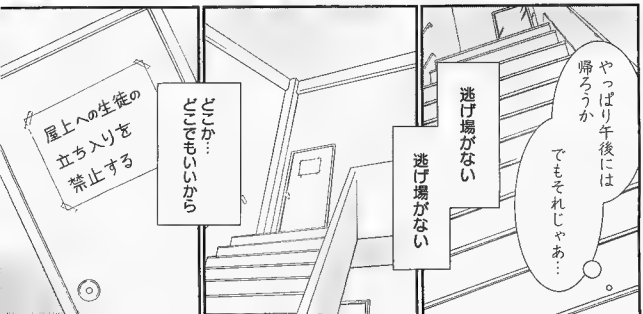
先生な…学んだんだよ
愛情ってのは見返りを
求めることじゃない…
焦らずにそっと見守る
ことも愛なんだ
だから先生は
じっと耐える！
ぽんっ
桜田も一緒に
がんばろう！

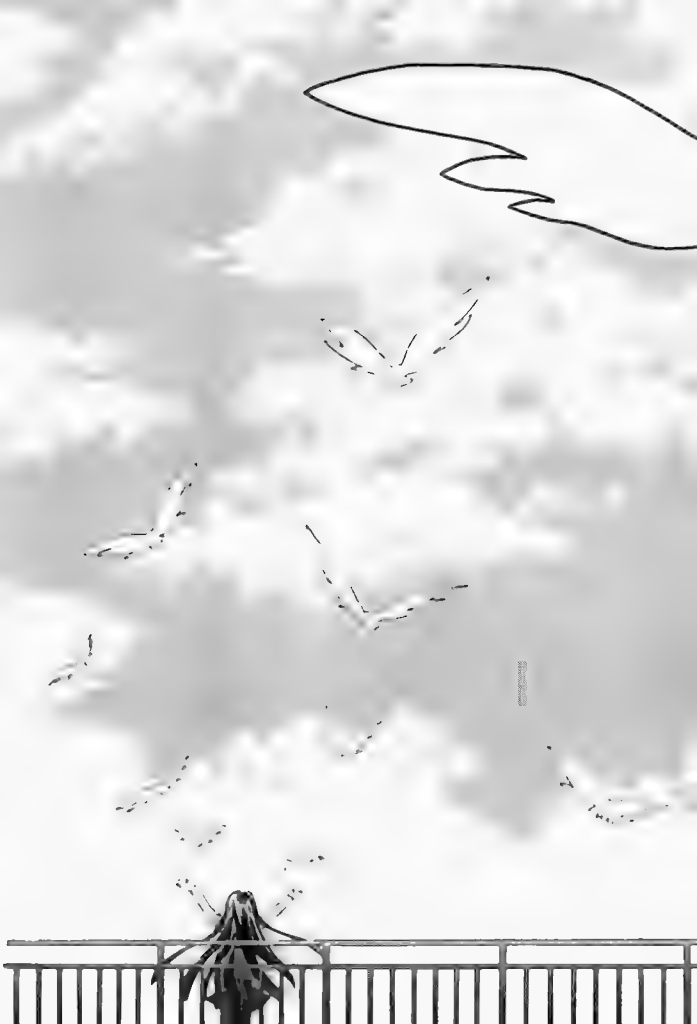
これが先生と
桜田をつなぐ
愛なんだよ！

まだ あんなに
空が高い

気持ち悪い…
他人の善意も
好奇の目も一緒だ
疲れる


なんだったんだアレ…
どういうセミナーに
行ったんだよ…
まあ放っといて
くれるんなら
なんでもいいけど…


やっぱり午後には
帰ろうか
でもそれじゃあ…
逃げ場がない
逃げ場がない
どこか…
どこでもいいから
屋上への生徒の
立ち入りを
禁止する



鳥？
いや違う
あれは…

ちょ…
う
2年6組のみんなから
柿崎めぐさんへ
メッセージ
2-6…
手紙…？
柿崎…？誰？転校生か？
もしかして…梅岡先生がまたこういう…
あの先生好きだなこの手の…

いや
そんなことより！
あの子…
柵の向こう側…
「逃げ場がない」
「疲れた」
ドクン
ドクン
まさか
この子も…
…
う…
うそだろ…
あ…
あの…

TALE 34

えっ
この人
どこかで…
会ったこと…？
あれ…？
なんだっけ…？

そ…そうだ
今は…
それよりも…
な
な…
何があったのか
知らないけど
待っ…
あッあの…
そ…そんなこと
…やめたら…

あっあの…
僕…は…
お…おとといまで
不登校…で
その…
心臓が
飛び出しそうだ
クラスの女子…に
送り迎えされたり
せっ先生に
ワケわからないこと
言われて…
最低な1日
だったけど

けど…みっ
みっともなくても…
ぜっ
前進できてるんじゃ
ないか…って…
…思…

…前進？
わっ待っ
違うよ
そういう意味
じゃなくてっ
ふふ
あなたも
同じようなこと
言うのね
あ…
えっ
前向きだとか
前進しよう
がんばろうって
あの
先生みたい

2年6組のみんなから
柿崎めぐさんへ
柿崎めぐ
……さん？
桜田ジュンくん？

えっ
不登校だったんだ
えっ
さっき教えてくれたじゃない
え…
ねえもしかして
あっあれは…と…飛びおりると思ったから……
——なんてクラスの子に聞いてたから知ってたんだけど

あなたも
あの全然
わかってない感じの
先生に
『わかってる』
みたいに
言われた？
無理するな
無理するな
大人しくしてろって
自分のペースで
ゆっくりでいいとか
やっぱりそう？
私もあなたと
同じ……
かごの中にずうっと
閉じ込められて
いたのよ

くるっ
えっ…
わっ…
ちょっと…
ねぇ
ここから一歩
踏み出すと
違う世界に行けると
思うでしょ

鳥かごの外に出られたと
思っても
違うの
でも
行けないのよ
この先も
現実なの
望む場所に
飛んでいくなんて
ただの夢で

目が覚めれば
どうせ まだ
かごの中なの
キーン
コーン…
よ
ひょい
わっ
あ…
あぶな……
……

ばいばい
カー
コー
…な…
……
パターン

水銀燈の話によると
このnのフィールドの
どこかに雪華綺晶の
「隠し部屋」がある
苗床にされている
マスターたちは
そこにいるはずだわ
僕もぼんやり
覚えている…
まるで水晶の棺に
みな眠らされている
ようだった
探し出す
ですよっ！
大体おじじは
寝たきりには まだ
早いですからね
…にしても……

おっお待たせ——
なのかしら——

あ——っ
やっと来たです
カナチビッ!!

今日みっちゃんがお弁当を
作ってくれてそうしたら
たまご焼きが焦げちゃって
作り直すって言ったら
たまごが切れててカナが…

キ——ッ
どうでもいい事情!

ぜぐぜぐ

とにかく
全員揃ったのなら
行きましょう

どっ
どこに?

みんなで
雪華綺晶のアジトを
見つけるんですっ

マスター達の
捕われてる場所を
探すんだよ

そ…
そうだった
かしら…

このあいだ
乙女会議で話したこと
忘れたですか!?

まったくもう

う…

いいこと?
みんな

お互いの気配が
わからなくなる程
離れてはダメ
場所をみつけたら
人工精霊を飛ばして
知らせましょう
決して一人では
近づかないこと

決して
一人では…
……
では
行きましょう

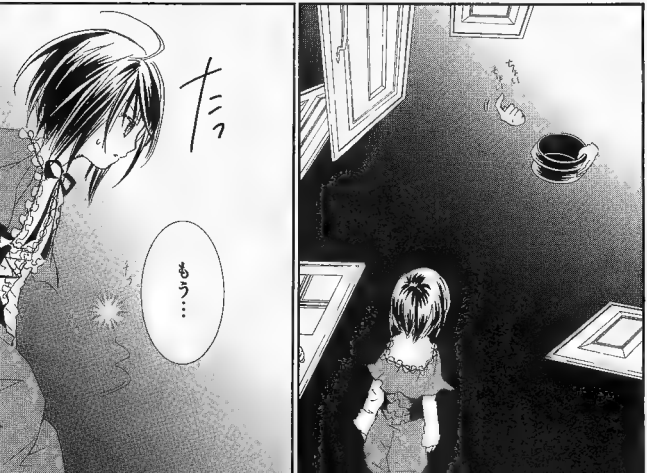
あ…あのね…
カナずっと
思ってたんだけど…
時間がない
話はあとで…
とにかく
出発するですよっ

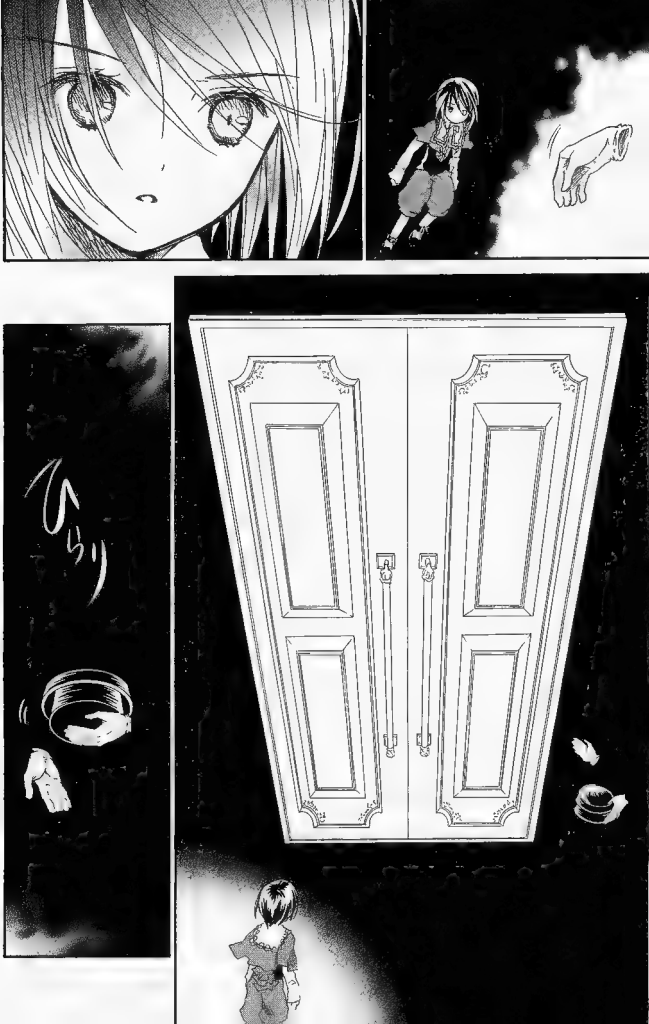
じゃあ僕は
第57402世界から
翠星石は
あっちですぅ
夕方までには
この場所に
集合しましょう
気をつけて…
……
わかった
かしら…

…帽子が…

ぱっ
！

バサッ
……
ラプラスの魔…？


カラン
もう…


ひとり

ドン
ドン
レンピカ…
!!

コーン…
じゃーねー
バイバイ
さよーう
結局 教室にも来なかったな…あの子
何だったんだよほんと一体…
桜田くん
あ…柏葉
何探してるの？
い…いや別に…

大丈夫？
なんか午後中ずっとぼーっとしてたみたい……
……やっぱり今日一緒に帰ろうか
え…なんで？部活だろ？
そうだけど…
……
……
平気だよ
はぁ…なんでこう
イラっとする…

誰も僕の気持ちなんか…
そうだ誰も…
私もあなたと同じ…
……なんであの子のことが…
ジュン！
あ――やっぱりジュンだった
あ…鳥海…？
いっしょに帰ろうぜ――
あれ？何？何か考え事してた？
えっ？なんで？声かけちゃダメな空気だったか？
い…いや別に…
い…いや
まあいいよ…帰ろう
やった

こいつって
なんかいっつも
神出鬼没…

今日
部活いきなり
休みできぁ

人数集まら
なくって

まるで僕の気分が
落ち込んでるのを
わかってるみたいに

日なたの道を
歩いてるっていうか…
僕とは全然別の
人種なんだろうけど

なんとなく…
こいつだけ
は…

できさ…
折角(せっかく)ばったり
会えた
ことだし

って言うのも
アレだけどさ
ジュンに
頼みが
あるんだ

頼み？

えっ…
今からウチに
…!?

な？
そんな長居
しないから
チラっとだけでも
ローゼンメイデンを
見せてもらえたら
それだけでいいんだ
み…見る…
…ったって…
一度でいいから本物の
ローゼンメイデンを
この目で見て
みたいんだ！
え…
なっ
頼むっ
この通りっ
えええ……!?

TALE 35

どこから
こうなった…
え…と…
飲みもの
つめたいので…
あっいい！
全然いい
悪いなー
急におしかけて
カラン
いやホント
おかまいなく
ヘージュンの部屋
広いんだなー
ちゃんと
片付いてるしさぁ
……
意外と図々しい
なーコイツ…
けど

考えてみたら
学校のヤツが部屋に
遊びにくるなんて
初めてだ…
キョロ
……
でさ…
ジュン
例のアレ
なんだけど
えっ…
あ…
みんな
出かけてる？
出かけるって…
ローゼンメイデンが？
うん…家中どこにも
いないからさ…
あいつら たまに
こういう時あるんだ
まあ鞄はあるし
すぐ帰って来るだろう
けど
…人形が…？
そ…
…あ
しまった…
つい うっかり
いつも通りに
……

…聞いたことある…
ローゼンメイデンは
ただの人形じゃないって…
生きた人形だって
すごいな
自分で動くってこと…？
一体どういう仕掛けで…
まさか本当に生きて…
いやまさか…
……
こいつ…
疑わない
のか…？
なあ…じゃあ
せめて写真か何か
ないのか？
どんな人形か
一目でいいから…
あ…
う…ん
そうだな
ちょっと待って
口で説明
するよりは…

――！
まず最初に
うちに来た
真紅ってのは
こんな感じの
赤いドレスで…
髪は…

え？
いっいや…
なんでも
……
…ごい…

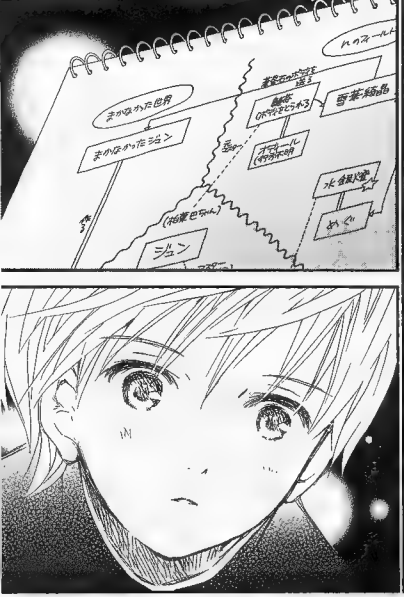
…あっ
え…今度は
なんだよもう
何この
アイスティー
すごいうまい
ペットボトルじゃ
ないっぽい…

真紅…
紅茶
飲むんだ…
あっ…

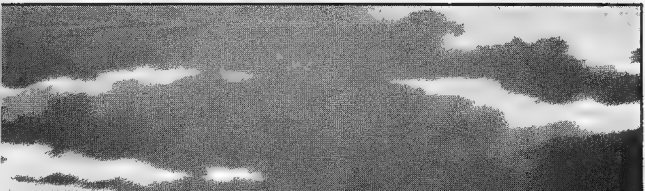
またやっちゃった
ヘンに思われる…
……
本当に…

あ…あー…
なんだ…
一応それ
水出しした
やつだからさ
真紅のやつが
うるさいんだ
茶葉から作れってさ…

本当にいるんだ…
ローゼンメイデン
生きた人形…
……
なあ
ジュン
他にも教えてよ
ローゼンメイデンの
こと


ハウィール
まかなかった世界
まかなかったシュン
(花屋さん)
シュン
水銀灯
あやね

アリス…
ゲーム…？



そっか…
ローゼンメイデン…
色んな人形が
いるんだな…
しかも その内3体が
この家で暮らしてる
なんて…
すごいよ
だ…だから
別にすごくは…
いや…
すごいよ
最初はアイスティーなんて
邪道だって言ってた真紅
翠星石の焼いたスコーンで
みんなでお茶を飲む
9時になるとみんな
鞄に入って眠って…
朝には たまにジュンが
ぜんまいを巻く
それに

アリスゲーム…
…信じてくれるって
思わなかったな
信じるさ
ジュンが言うん
だもん
「マスター」
なんだろ？
や…まぁ
そうだけど…
別に僕は
何したわけでもないし
ただ巻き込まれた
だけで…
いや違う
やっぱりジュンは
特別だ
〝選ばれた〟
んだよ
俺…

ジュンに
なりたいなぁ
「僕…
こいつみたいに
なりたい」
なん…で
そんなこと…
なりたいよ

俺ジュンになりたいんだ
君は…

水銀燈…！

誰？
…お父様？
水…
待って
ここは暗くて
何も見えないの…
僕がわからないの？
お父…

!!
鏡…？
がらくた置場へようこそ
パン
パン
パン
蒼のお嬢さん
ラプラス…
思い出されましたか？

現在過去未来
そんなものが一切
意味を持たない
あらゆる心
あらゆる時間
あらゆる断片が
漂うばかりの
縹渺たる無辺際
ここは
貴女がたが
〝9秒前の白〟と
呼ぶ場所の河口
9秒前の白…
探しものは
見つかりましたか？
君の
名前は？
忘れて
しまった…

名前なんて
モノの本質を
示すには至らない
些細なもの
でも
必要なもの
だから大切に
した方がいい
僕…？
君自身への
帰り道を――
不思議だ…
どうしてか
それがわかる
僕は昔
ここで
さあ おいで
一緒に探そう

無意識の海…

どんなに
壊れても
誰にも愛されなくてもいい
このまま
壊れてしまっても
ぐすっ
君は
壊れないッ…
ぐすっ
大丈夫

くっ…
!?
呆れるわね
悪趣味ったらない

水銀燈…！
こんなものを
延々と上映されちゃ
たまらないわよ

探しものを
してるうちに
くだらないところへ
紛れ込んだわ
まったく…
探しもの…

さっきのあれは
…君だよね？

…ええそう
貴女のローザミスティカが
なじまなくて
苦しめられていた時のね
どうやら無意識の海で
貴方(あなた)たちは顔を合わせて
いたようね

まあいい…
ちょうどよかったわ
貴女に預けてある
その
ローザミスティカ
期限が
どこまでなのか
ちゃんと話して
なかったわね
私の探しものが
終わるまで…
あの子を見つけて
取り戻すまでよ
君のあんな姿を
見たのは
はじめてだ
きっとあれが
本当の…
はっ…よして
哀れみのつもり？
そういうのは他の
姉妹となさい
……
めぐだね？

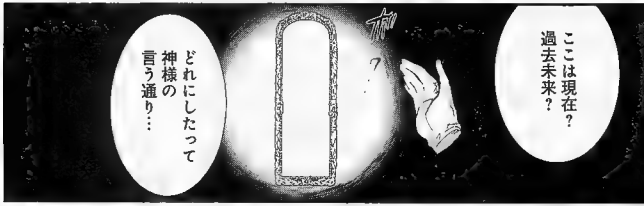
哀れみなんか
じゃない
君は僕と
…よく似ている
あらまぁ…
双子ちゃんを
さしおいて？
そう
もしかしたら彼女より
まるで
迷子になって
声もあげられずに…
そうしているうち
いつか自分の名前も
なくしてしまった
僕もいつだって
探しものをしてたんだ
あの鏡の向こう側で——
僕自身の影を

羽根を傷めた
君のようにね
……
けれど今はもう
僕は僕自身を
取り戻した…
君も取り戻すべきだ
そして
僕のなかにある
僕のカケラは
君のものだ
ある物は
あるままの形に
そうだろう？

君の探しものは
僕の探しものでも
ある

――だから

ピチ
ピチ
ラプラス…？
イーニー
ミーニー
マイニーモー
ぽん


ここは現在？
過去未来？
どれにしたって
神様の
言う通り…

さてお嬢さん方
お立ち合い
ここにございますは
真実の鏡
鏡と言えば虚像を映す
あべこべだらけの嘘つきと
相場は決まっておりますが
この鏡はすてきに違う
真実（ほんとう）ばかりを映し出す
魔女に毒の林檎を
こしらえさせる位には
正直者にございます…

失せもの
消えもの
探しもの
さあ
貴女がたの
大切なものは？
そ――っと覗いて
ご覧なさい…
鳥海皆人…
変なやつ…
僕なんかに
なりたいとかって
ほんとヘンな奴

ヘンな奴
なりたい…
なる…
俺はジュンに
なる…
なる――…

――あれは！

マスター……？

TALE 36

トク…
トク…
トク…
ねぇ…
ジュン…

ふ
二人きり…ですね…
うん

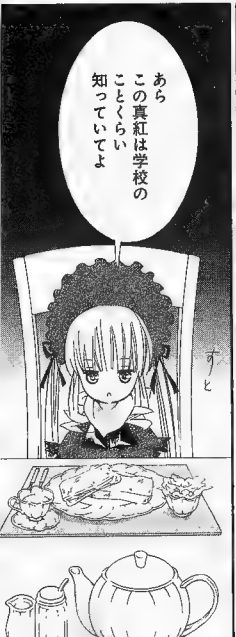
ジュン…
何
いっ…いま何考えてるです…？
う――ん…

なんでこんなことになったんだっけな——
とか…
遡ること数時間前——
おはよ——…
おはよ…
あら？
ジュンくんずいぶん早いのねぇー
今日 日曜よ？
ん——…

最近早起きしてたせいかなぁ
なんか自然と目が覚めちゃって…
何
うっううんなんでも…
パパママ…！
はー
やっと日曜かぁ——
とさっ
今日は久しぶりに家でのんびり…
できないかやっぱり…
この香り…
今朝はクロックムッシュね
わや
わや
わや
あ——っ
チビ人間がもう起きてるですよ!?
おはようマスター
ふん…なんだキミたちずいぶんと遅い朝だな
くっ
チビ人間最近調子乗り始めてるですね…

ちょーっとぐらい
「学校」ってのに
行き始めた
からって…
そりゃちょっとは
まあ…エライ
ですけども…
「学校」…?
二人は
同じ学校に
いってるの?
えっ 私と
ジュンくん?
ううん
違うわよ

私は高校で
ジュンくんが行ってるのは
中学ねぇ
学校ってそんな
いくつも種類が
あるですか?
そうよぉ
あら
よく知らない?


あら
この真紅は学校の
ことくらい
知っていてよ
すと

人がたくさん
集まる場所のことは
あまりよく
わからないですよ
まあ…
そうなの
僕らは基本的に
マスター以外とは
会えないから…

以前にジュンのnのフィールドで行ったこともあるわ

すごい

真紅かっけー！です！どんな所なんです!?

なぁーんだ

じゃあこの中ではきっと翠星石が一番学校にくわしいですよ！

そうね…広くもなく狭くもなく……

特に目立ったところもなければ何もないというわけでもなかったわ

本当はわかってないな

犯人像は20～50代ってくらいの感じです

毎日このりのご本で勉強してますからね

プリティ

7月号

イケメンHEAVEN

モテ地獄

とん

しょ…少女マンガ？

パラ

なん…
これ…
どっから読む…？
縦横…
ねっねっ
(しょ)
見えた
ドキ
ドキ
まともに顔も
見れないよ…
うそっ
教室に
二人きり…？

トクン
だ…
誰が来たら
どうしよう……
俺は みんなに
見せつけたい
けどね
トクン
でも ほら
今は
カーテンの
カゲで…

……
ほぅ
どんな所なん
ですかねぇ…
学校…
何想像
してんのか
しらないけど
多分違うぞ

……
んー…
そうだわ
ジュンくん！
今日 図書館も
休館で行かない
のよね？
？
うん
だったら
たまには…
はぁもう…
なんでせっかくの
日曜にまで
学校に行かなくちゃ
……
ガタ
ガタ
ジュン…
ジュン！
まだですぅ？
この中
きゅうくつで…
あっ バカ
顔出すな

日曜でも部活の奴らとかいるんだぞ…教室つくまで我慢しろって
えー
たいくつですー
もーまったくうジュンはケチですねぇー…
だいたい折角のりが翠星石たちを学校に連れてってって言ってくれたのに…
なのに定員一名なんてー
当たり前だろ一人でも大変だってのに…
真紅も蒼星石もきっと来たがってたですよ
そんなゴロゴロ面倒見きれるか
そしたら次の日曜日は蒼星石です！その次は…
僕の休みってなんなんだよ
姉ちゃんが言い出しっぺなんだから姉ちゃんが連れてったらいいよ
とにかく僕はもうごめんだからな
…じゃあ翠星石が最初で最後？
まあね…できればひき返して最初から最後にしたいけど
ふふ…

…
なんだよ…
べっつにー
ですぅ
ホラ
とりあえず
教室行くぞ…

ね…ねぇ
ジュン…
二人きり
ですね…

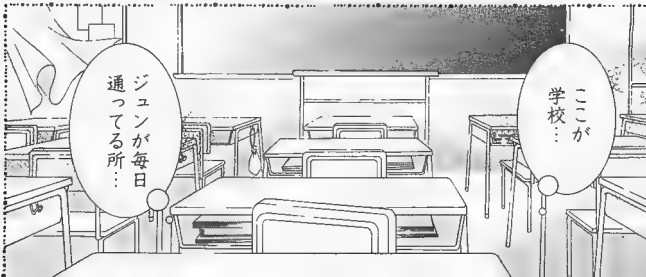
…とまあ
こんな流れだった
わけだけど
は――もう…
やっと日曜ってのに
学校なんて…
ってか勝手に教室
入って怒られないかな…

それは
さっきも
聞いたよ…
す…翠星石は今
何考えてると
思います…？
知らないよ
もう…
当ててみて
くださいです
えー…
…じゃあ…

誰かに見られたらどうしよう…とか？
ビクッ
ですっ!?
…ん？

なんだよ今の
なっ なんでもない気にすんなですッ
であります

…っとに…
ピキ ピキ


ここが学校…
ジュンが毎日通ってる所…

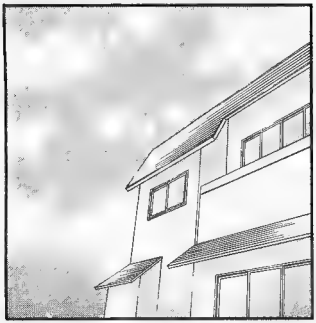
ジュンが目指して戦ってきた場所…
…なーんて言ってもらえるとでも思ったら大まちがいですからッ思い上がんなですよッ!!
てッ!?
な…なんなんだよまたいわれのない……
っていうか静かにしろよな
へ…
う…うそだろ
本当に誰か来るぞ…!
はっはいッ!?
翠星石!

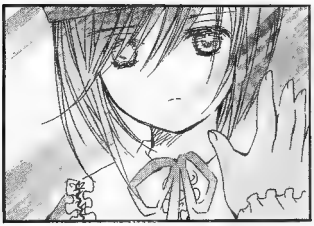
隠れるぞ！
えっ…
ええっ…
この展開は…!!
カーテンのカゲで…

よし！
ガしっ
はえ!?

ちょっ…
ちょ——っ
抱き方
ッ!!
どっか
隠れる
場所は…
えっ
ちょっ

ちょっ…ちょお――っ
待つですっジュン
まさか そんなトコロに
翠星石を…
ごめん
ちょっとの
間だからっ
ふざけんな
です――!!
ぼかっ
もやすゴミ
ええええええッ
えっ…
こら――っ
ジュン――っ
わっ…
ガバッ
ガバッ





…静かだね
ええ…
のりも
出かけたし
翠星石たちも
今頃は学校かな…
ええ…
昨日は
何かあったの？
会話終了…
nのフィールドで
末妹の手がかりは
誰も何も見つけ
られなかったわね
けれど あれから
貴女はどこか
うわの空のように
見えるのだわ
まるで

ほかの何かに
出会ってしまった
かのような…
パタン
鋭いね
最近わかったのよ
ポーカーフェイスに見えて
意外に顔に出るのは
翠星石ではなく
貴女のほう…
ラプラスの魔に
ちょっと悪戯されたんだ
過去の光景を見せられて
意外な顔ぶれに
逢ったよ
ジュンくんと
水銀燈…そして
彼女のマスターめぐ

しんと静かで
一見それはまるで
冷たい色の
けれど確かな熱を
湛えて輝く
水銀のランプ
あの3人は奇妙な糸で
結ばれている…
ジュンくんは覚えてない
ようだけど…
でも水銀燈とそのマスターには
僕が思っていた以上に
確かな絆があった
——少なくとも
僕は

彼女の胸に灯る
小さな炎を見たんだ
…私の知ってる彼女は
絆など陳腐で
最後には引き千切られて
しまうと言ったわ
私たち姉妹は
絶望するために
生まれたのだと
けれど彼女にも
変化が訪れたようね…
気付いてしまった
のでしょう？
蒼星石
え？
水銀燈のその小さな炎に
貴女自身のそれと
よく似た色を…
……
かなわないな
君には…

めぐ
鍵を握るのは
あの少女――
蒼星石
貴女も
困った子…
本来 僕は
マスターを守り切れず
アリスゲームに敗れ
水銀燈のローザミスティカを
いわばイレギュラーに
奪った身だ
このかりそめの生を…
叶うなら彼女のために
使いたい――…
ジュンくんには
翠星石も
君もいるしね
…なんて
まあ…
どうせ嘘は
下手だから…
君には正直に
話してみたよ

午後はけたら
どうすっかー
どこ行くー
ガヤ
ガヤ
ガヤ

とりあえず
一難去った…
……
けど…
2-B 林間学校

2-B 林間学校
ゴミ箱に
上履(うわば)きって……
とっさに拾っちゃったけど
なんだってまた
こんな…
これって
あの子のだよな

転校生…
柿崎…めぐ…
……
ゴ…ゴメン…
ゴメンな？
とっさのことで
つい……
ゴメン…
ゴ…
ゴミ箱よりは
マシだったろ？
しくしく…
しくしく…
あ
忘れてた…

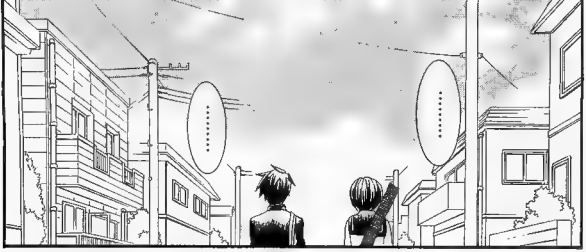
……
……
泣いてる？
いいからさっさと出せですっ
あ
うん
ムズ

ど…
どうしよ…
コレ…
あ
……
わっ
ぽか
ぽす
ぽす
きーっ
な…
なんだよ…
だからゴメンって…
おい…
知らんですっ
ゴメンぐらいじゃ
済まさんのですっ
も！…
悪かったよ…
許さんです
あ――も…
どうしたら
許してくれる？
なぁ…
ぽ…
……
…カーテン…
え？

カーテン？
カーテンに…
で…
で？
……
？
かちゃ
もういいなんでもないですっおニブおばかおチビ！
？
？
詫びとして帰りにマカロンタワーおごれです！
うーん…まぁいいか
えっ…ほほんとにです？

TALE 37

桜田くん
柏葉…
あ ごめん
もしかして家に…
うん でも
のりさんが
もう出たって
いうから…
早いね
早起きにも
慣れてきたかな
……はは
……
そう


……

あの…さ…
はい？
転校生…ってさ
学校…あんまりいないよね
あぁ…柿崎さんはうん…身体が弱いって話だから…きっと毎日は…
そっか…

……
ゴミ箱のあの上履き…
……

委員長の柏葉なら何か知ってるかと思ったけど…
でもだからってなんて聞けば……
あの子いじめられてない？とか？まさか…
けど…
うーん…

良かった…
のかな…
えっ？
何が…
桜田くん…
自分以外のこと
背負いすぎていた
気がするから……

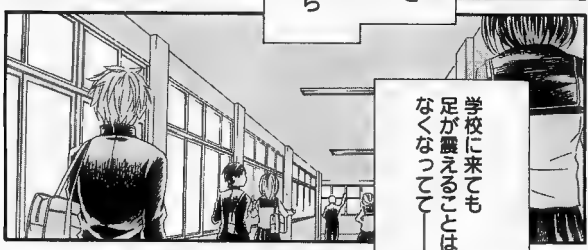
うん

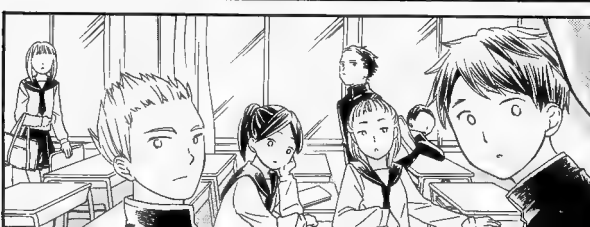
だからそういうの
…良い事だと思う
な…なんか
カン違いされたぞ
あ…そういえば
はじめて来た日
柿崎さんね
「桜田くんに
会いたかったから
来たんだ」って
言ってて……
それで最初二人は
知り合いなのかと思って

——なんでか
全然わかんないけど
気になることが
多すぎて

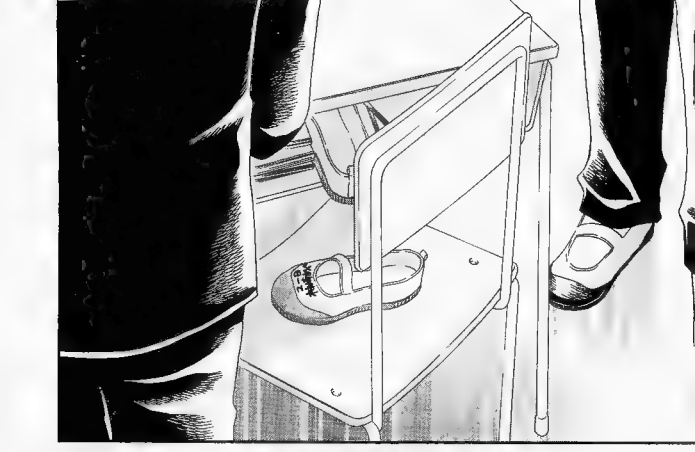
気付いたら

学校に来ても
足が震えることは
なくなってて——…





え…？
前にもこういうまたっ
なななんで
ガタ！



やっぱりアレ
めぐちゃんの
上履きだよね…

さっき机に
ぶつかった拍子に
さぁ…

なんで
あの人の机に…

これか…

そうだった とりあえず
机につっこんで…
だって捨てるわけにも…

まさか
盗んだとか
そういう…？

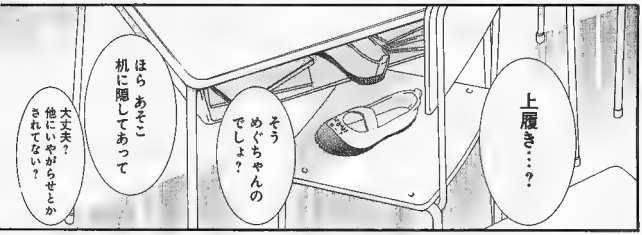
オレも
めぐちゃんの匂い
かぎて――

えっ
何なに？

ねえ
それって柿崎さんのでしょどうしたの？
なんで机に入ってるわけ
ちが…
え？何？
ゴミ…ゴミ箱…
ゴミ箱!?
人の上履き勝手に捨てたの？
ちが…
またかよ
ひっど…それってイジメじゃ…
マジで？
え――…
う…
ちょっと何黙ってるの
なんだよこれ…それじゃ繰り返しだまた…まただ
なんとかしなきゃでも声が
そういえば桜田ってき前にも…
…
声が――
カラッ

めぐちゃん！
よかったー
予鈴ぴったり…
あれ？みんな
どうしたの？

あっ
柿崎さん
スリッパじゃない
やっぱり…！
うそーっ
あのね…
びっくりしないで？
桜田くんがね
……
え…？

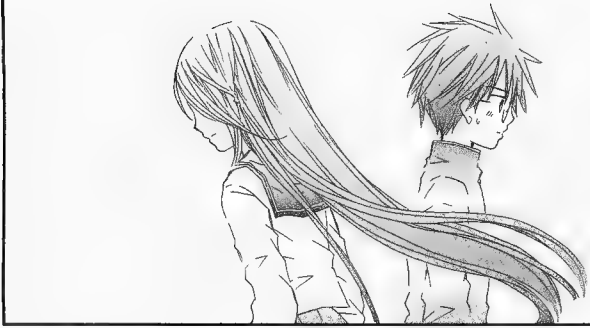

上履き…？
そう
めぐちゃんの
でしょ？
ほら あそこ
机に隠してあって
大丈夫？
他にいやがらせとか
されてない？

あ——あー
アレ…
あはは っ
めぐちゃ…？

ほらよく見て…これ
前の学校のやつなの
書いてあるクラス違うでしょ？
え…
新しい上履きが届くからもういらないかなーって自分でゴミ箱に捨てたの
あ―よく見ると…
で…でもじゃあ何で今日スリッパ？

それが手違いで…今日届くはずだったんだけどね
この上履きは桜田くんがたまたま見つけて拾ってくれたんだと思うわ…
ねっ
あ…あ…うん…
すっ

助かっちゃった
…ありがと
桜田くん



なんだ…
ちょっとあやまんなよー
おい誰だよイジメとかさわいだヤツー
あの…桜田くんごめんね
い…いや別になんか悪かったな——
俺も…
ねぇめぐちゃんこの間貸すっていった本持ってきてるよ
えっほんとー
嬉しい
スリッパ返してきてあげようか？

「柿崎さん」
「桜田くんに
会いたかったから
来たんだって――」
キーン
コーン

…っ
もう
いない…
どこだ?
休み時間になると
いつもいない…
お礼言いたいのに…
どこだ?
どこに行っ……
あ
ガシッ
もしかして
あそこ…
つっ
つと
あ…
ジュン
と…鳥海か
なんだ…
よかった…
ちょうど探して
たんだ…
ジュンに聞いて
ほしいことが
あって…
あっ…ちょっとゴメン
今急いでて
俺…
あ――っと…
後で聞くよ
ごめん

決めたんだよ
俺…
あっそうだ…
転校生
見なかった？
多分こっちに
来たと思うん
だけど…
髪の長い…って
言っても
わかんないか
じゃごめん
今度なっ
……
俺…
なるんだ…

ドア開いてる！
やっぱりあそこだ
きっと屋上に…
ひぎぃッ
いっ!?
わっ
わああっ
ドサッ
い…
いた…た…

王子様オーディションがあったら失格ね
硝子の靴に躓くなんてありえないもの

あ……
え…と
……
あッ…つ…
立…
立てな…
…僕…
君にその…お礼が
言いたくて…
今朝のこと
本当に
助かったから
だから…
あっ…あのままだったら
またみんなに
誤解されて…
ああ
アレ…
嘘よ
靴とか急に
嫌になったから
捨ててやっただけ

……
え…
でも新しい上履きが来るからって…
だから嘘
知ってる？裸足で廊下歩くと気持ちいいのよ
靴も靴下もほんとは嫌いなの
病院の外に出ても案外自由って許されないもんね
こうるさいのが看護師か教師かの違いだわ
……
君って……何か教室とイメージが…
そう？
まぁ被る猫なら何匹も飼っているから

ねえ
上がって
来ないの？
いい天気よ
……
…ちょっと…
立てなくて…
……
ふうん
屋上…
好きなの？
え？
あの…
前の時も
そこにいたから…
ああ…
別に…
でも嫌いじゃないわ
キョウカイだから
キョウ…？
教会…？

ボーダー
さかい目でしょ
色んな意味でね
柵のむこうに
一歩踏み出せれば
簡単に越えられ
そう…なのに
ねぇ
あぁ
境界…
……

屋上からダイブする人ってきっと空に喉されたのね
晴れた日の空を見てると飛べるような気分になってくるじゃない
でも
出来もしないことをまるで出来るみたいに誘惑するのは
罪だわ

…君…が
僕に会いに…
この学校に来たって
聞いたんだ
でも僕は…
君を…
知らないと思う
…君は…
…教えてあげる
目を閉じて
いいって
言うまで

私ね…
あなたのこと
ちょっとだけ
詳しいの
会いたかった
ぺた
ぺた
——あのね
あんな靴
本当は
…っ…
う…？
いらなかったの
ぐ…

ねぇ…どうして
拾ったりしたの？
靴なんか拾われて
追い掛けられて本当は
シンデレラだって迷惑
してたんじゃないかしら

…ッ…
あなたってミジメよね
そうして床に這いつくばって
王子様って言うより
カエルみたい
クラスの女子全員
そう思ってるわよ
その女の子達に
責められて言い返せなくて
挙句にまた女の子に
助けられて
恥ずかしくない？
な…

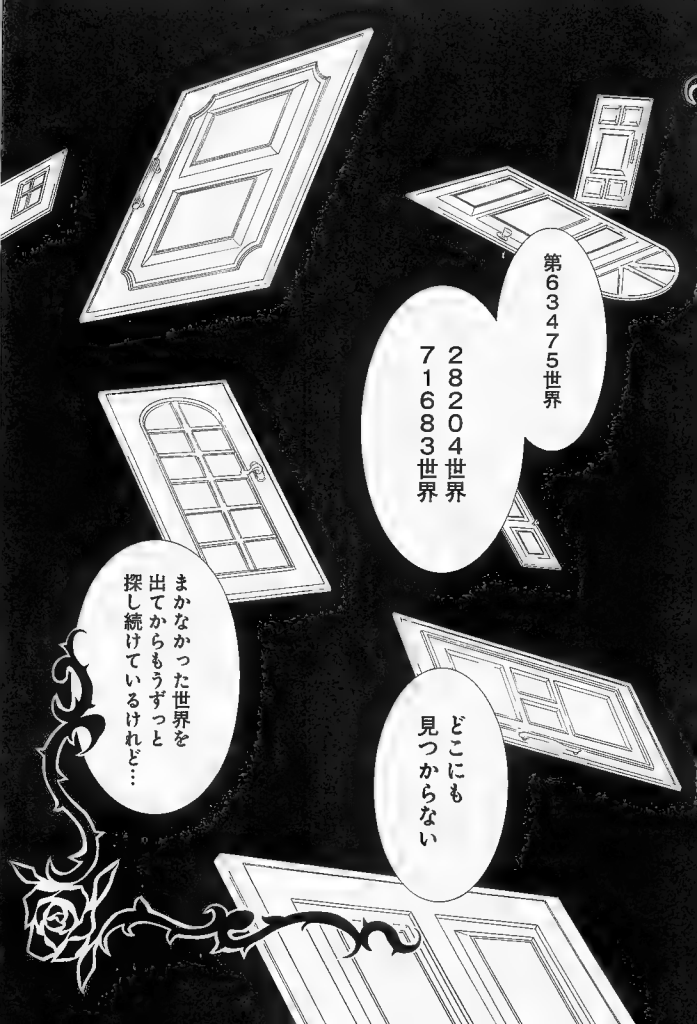
むっ…
ぐ…
でも悪いのは
ぜーんぶあなた
あなた自身の
せいなのよ
わかる？
あなたの存在が
みんなを
イライラさせるの
――何？
ああ わかってるわ
大丈夫よ
手加減なんか
しないから
っ…？
誰だ？
誰かと話して――
ねぇ
ジュンくん

今から
傷つけてあげる

to be continued

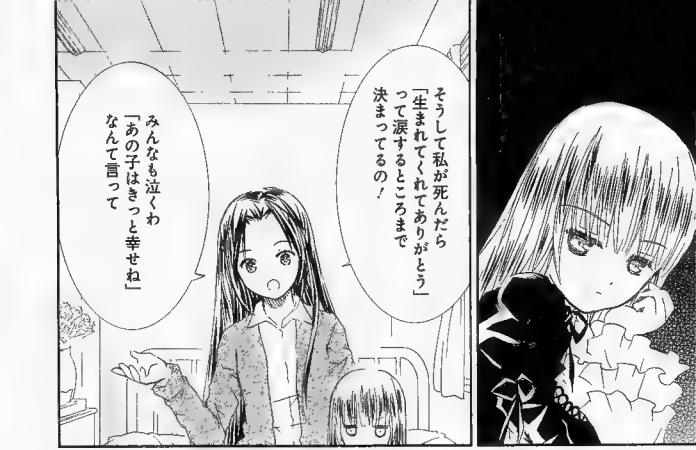
EXTRA TALE

第15509世界
…ここも違った


第63475世界
28204世界
71683世界
どこにも
見つからない
まかなかった世界を
出てからもうずっと
探し続けているけれど…

——わかってるわ
メイメイ
休めというんでしょ
ローザミスティカが
ひとつ減ったからといって
急に倒れたりはしないわ
…もっとも
それをマスターに
したのは私だったわね
だって私
死にかけだもの
まったく……末妹も
あんな死にかけを
さらって
どうするというのよ
苗床にしたところで
たかが知れてるでしょうに

からたちの
とげは痛いよ…
♫
青い青い
針のとげだよ…
♫
ねぇ
水銀燈…
映画や小説に出てくる
不治の病の娘なんてね
現実には
人生のお荷物
みぃんな
困るだけなのよ
パパはね
それが原因でママに
逃げられても
まわりからは
「不憫な娘の父親」を
求められてしまうの
それを演じなきゃ
ならないのよ


そうして私が死んだら
「生まれてくれてありがとう」
って涙するところまで
決まってるの！
みんなも泣くわ
「あの子はきっと幸せね」
なんて言って

けど泣きたいのは
こっちよ
死んだ後って
訳のわからない
長ったらしい名前に
変えられて
火あぶりになるのよ？
まるで魔女扱いじゃない…
この国の死者のあしらいと
きたら

もう冗談じゃない
美しくも何ともない
……
だったら死に場所
くらい自分で選んだら？
もちろん
そのつもり

だから貴女が
来てくれたんでしょう？
天使に導かれて
私は病院から消えるのよ
魔法みたいにね
…天使ね……
いい加減 その呼び方
どうにかならないかしら
あら
いいじゃない
貴女にぴったりよ
私にとって
水銀燈は天使
死にかけの私を
迎えに来てくれた
黒い天使なのよ
…ところで
いつまでこうしていれば
いいわけ？
あっ待って
まだ動いちゃだめ
もうちょっとっ
…はいっ

じゃんっ
ちょっと
なんなのよこれ
気に入った？
私とお揃い
たまには新鮮でしょ
バカじゃない…
あっあっ
でも無理に解いたり
しないんだ？
ってことはそんなに
厭じゃないのね
…どうだって
いいだけよ
ふふ…
来たばかりの時は
触らせてもくれなかったのに

どう？
これもお揃いよ
これは
〝お見舞い〟っていう
儀式の花よ
ああやって花の生首を飾って
腐るまでを私に見せつけて
それが済んだらまた
新しい首を持ってくるの
その繰り返し
…ね？
私がイカれた子に
なるのもわかるでしょ？
…イカれてるわ
でしょ？

けど こいつらも
私よりは
はるかにマシ
そう
思えるのよ
生首にされて…
根もないくせに
枯れるのを待つだけのくせに
…まだ咲いてるの
死にかけの
死に損ない
…いいえ
うまく生きられ
ないんだから
生き損ないって
言った方が
合ってるかな

はぁ
はぁ

隠れて
水銀燈
…めぐ？

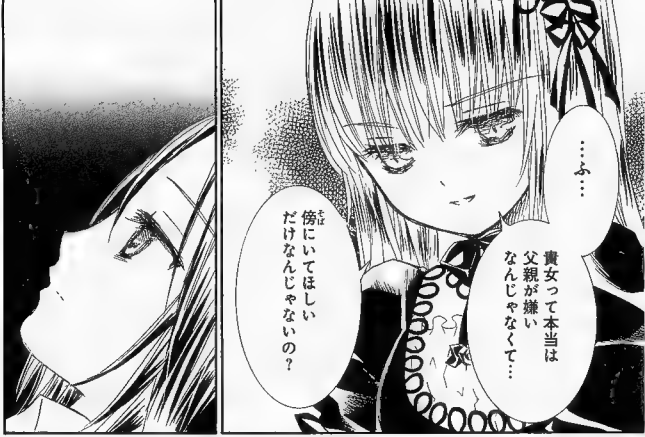
美しくない
看護師たちが
駆けつけてくるわ
『私のマスターに
相応しい』
『病んでイカれた子』

いつもあの子は楽しそうで
いつもあの子は苛立っていて
まるで箱舟で
滅びを待ち続ける
最後の一羽
陸を見つけられず
たった一羽
さまようだけの鳩
何よ!!
ハハだって私から逃げてばっかり
なのに都合のいい時ばかり偽そうに父親ぶって
アンタなんか父親じゃない!!
バサッ
バサッ
バサッ

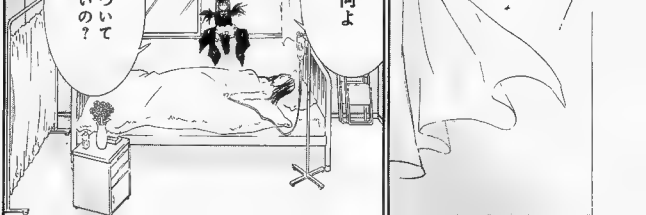
何故私があの子を選んだのか——
それは きっと ある一点において
私と彼女が 同じ一つの海に 足を浸していたからなのでしょう
お父様
看護師さんが困らせるんじゃない
あいつさえいなければ
病院

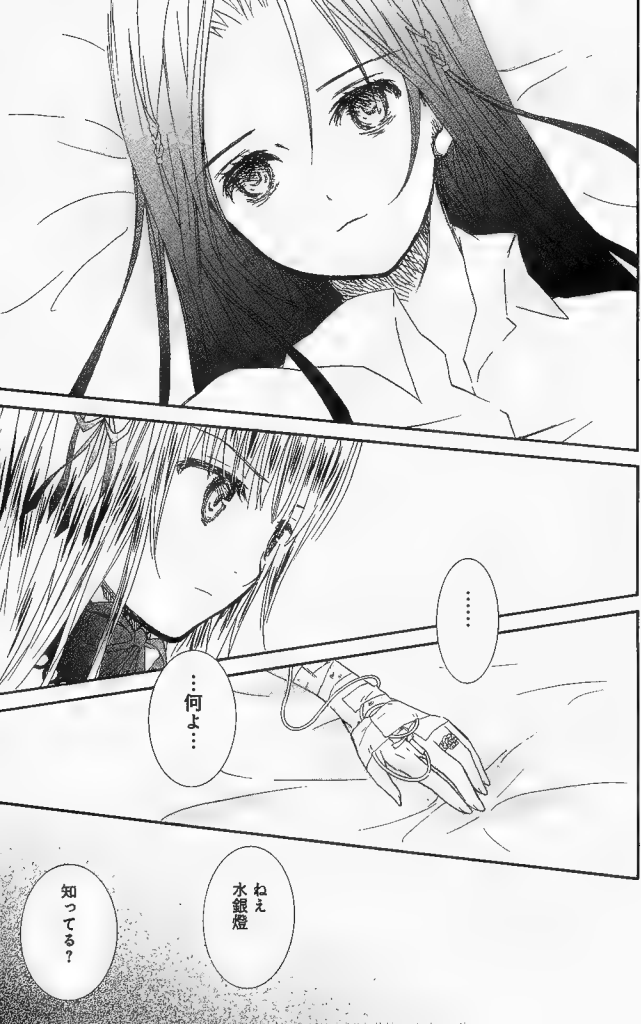
今日は
気分がいいのよ
パパ
そうだった
かしら？
先週は
会ってももらえ
なかったからね
そうか…
よかったよ
めぐ
……
あのね…
パパにだけなら
教えてもいいわ
実はね
私のところに…

めぐちゃん
点滴の時間よ
あら
…あとに
しましょうか？
いや…そろそろ
仕事に戻る
時間だ
「また来週」
話を聞くよ
めぐ
いつになく
素直だったじゃなぁい？
来るたび あの父親には
当たり散らしてたのに
…今日は
たまたまよ
ああして ちょっと
素直にしていれば早く
帰ってくれるから…


…ふ…
貴女って本当は父親が嫌いなんじゃなくて…
傍にいてほしいだけなんじゃないの？

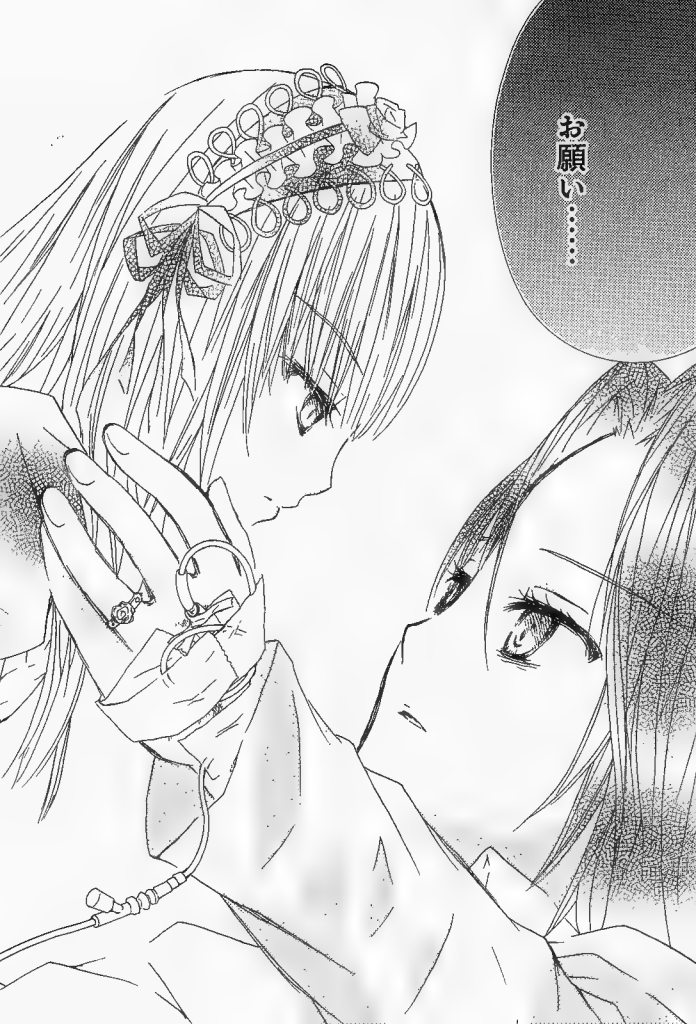
あっはははは！図星ってわけ？
死にたいだのなんだのと言って結局は……
横になったまま愛情だけ欲しがる赤ん坊と同じねぇ


……何よ
噛みついてこないの？


……
…何よ…
ねぇ
水銀燈
知ってる？

高い塔に
閉じこめられた姫を
王子様が助けにくるの
ラプンツェルの
お伽話…
髪をのばして…
長く長く編んで…
…私の髪を
切ってくれてたのは
ママだったわ
でも もう
誰もいない
もういいの
助けてくれるのは
王子様じゃなくて
天使だったの
――ねぇ 水銀燈

いつか本当に
…本当に私を
迎えに来てね
私を本当に
死なせてね……
私をおいて
どこかに消えたり
しないで


お願い……

消えてしまったのは
貴女の方だったなんて

けれど

そして今
それを必死に
探してるのは…

…ふ…

行くわよ
メイメイ

こんな黒い翼を
天使と呼ぶのは
あの子ぐらいの
ものだわ

もっとも
あの子を連れて行ったのは
私じゃなく――

白い天使

――めぐ

あなたの本当の
望みを叶えられるのは
あの末妹かも知れないわね

私は めぐを取り戻して
どうしようと
いうのかしら

わからないわ

それでも

いいわ

誓ってあげる

「死が二人を別つまで？」「いいえ」
死んでも一緒だわ――

初出◆「週刊ヤングジャンプ」H23年6+7合併号、11号、15号、20号、26号、30号、34号

ヤングジャンプ・コミックス
ローゼンメイデン6

発行日 2011年11月23日[第1刷発行]

著者 ——◆ PEACH-PIT
©PEACH-PIT 2011

編集 ——◆ 株式会社ホーム社
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3丁目29番 共同ビル
電話 03(5211)2651

発行人 ——◆ 太田富雄

発行所 ——◆ 株式会社集英社
〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号
電話 03(3230)6222[編集部]
03(3230)6191[販売部]
03(3230)6076[読者係]

デザイン ——◆ ミルキィ・イソベ+明光院花音(ステュディオ・パラボリカ)
プリンティング・ディレクター◆ 森岩麻衣子+高本晃宏(凸版印刷株式会社)

Printed in Japan

製版所 ——◆ 株式会社昭和ブライト
印刷所 ——◆ 凸版印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁(本のページ順序の間違いや抜け落ち)の場合はお取り替え致します。購入された書店名を明記して、集英社読者係宛にお送り下さい。送料は集英社負担でお取り替え致します。但し、古書店で購入したものについてはお取り替え出来ません。
本書の一部または全部を無断で複写、複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。また、業者など、読者本人以外による本書のデジタル化は、いかなる場合でも一切認められませんのでご注意下さい。

ISBN978-4-08-879214-9 C9979

◎この作品はフィクションです。
実在の人物・団体・事件などにはいっさい関係ありません。